

# 米国3倍4資産リスク分散ファンド (毎月決算型) (愛称：アメリカまるごとレバレッジ (毎月決算型) )

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	2019年10月15日～2029年9月11日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	米国3倍4資産リスク分散マザーファンドの受益証券
	米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	次の有価証券および先物取引 イ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引 ロ. 米国国債を対象とした先物取引 ハ. 米国の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券（以下「リート」といいます。）の指数を対象指数としたETF（上場投資信託証券） ニ. 米国リートを対象としたリート指数先物取引 ホ. 金を対象とした先物取引 ヘ. 米国国債
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	
分配方針	<p>分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、当初設定から1年以内に分配を開始し、分配開始後は、原則として、分配対象額の範囲内で、下記イ. およびロ. に基づき分配します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。</p> <p>イ. 計算期末の前営業日の基準価額（1万口当たり。既払分配金を加算しません。以下同じ。）が11,000円未満の場合、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。</p> <p>ロ. 計算期末の前営業日の基準価額が11,000円以上の場合、当該基準価額に応じ、下記の金額（1万口当たり）を分配することをめざします。</p> <p>(a) 11,000円以上12,000円未満の場合 ・・・100円</p> <p>(b) 12,000円以上の場合・・・150円</p> <p>なお、計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行なわないことがあります。</p>	

## 運用報告書(全体版)

第42期 (決算日 2023年4月11日)  
 第43期 (決算日 2023年5月11日)  
 第44期 (決算日 2023年6月12日)  
 第45期 (決算日 2023年7月11日)  
 第46期 (決算日 2023年8月14日)  
 第47期 (決算日 2023年9月11日)  
 (作成対象期間 2023年3月14日～2023年9月11日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資を行ない、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
 お問い合わせ先（コールセンター）  
 TEL 0120-106212  
 (営業日の9:00～17:00)  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

## 最近30期の運用実績

決算期	基準価額			株式先物 比率	公社債 組入比率	債券先物 比率	投資信託 受益証券 組入比率	商品先物 比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率						
18期末(2021年4月12日)	円	円	%	%	%	%	%	%	百万円
18期末(2021年4月12日)	10,325	80	3.4	31.8	50.0	208.1	20.2	33.1	201
19期末(2021年5月11日)	10,586	80	3.3	29.9	51.7	209.4	20.9	35.0	193
20期末(2021年6月11日)	11,090	100	5.7	30.3	50.9	206.4	20.9	33.5	191
21期末(2021年7月12日)	11,130	100	1.3	31.1	41.4	208.9	20.9	33.1	118
22期末(2021年8月11日)	10,902	100	△ 1.2	39.0	35.8	191.2	25.7	45.1	120
23期末(2021年9月13日)	11,041	100	2.2	39.1	34.9	194.6	25.6	46.0	123
24期末(2021年10月11日)	10,571	80	△ 3.5	37.5	30.7	189.5	25.7	46.3	128
25期末(2021年11月11日)	11,221	100	7.1	39.9	31.4	186.6	26.1	46.6	113
26期末(2021年12月13日)	11,003	100	△ 1.1	40.5	31.3	185.4	26.3	46.1	113
27期末(2022年1月11日)	10,781	80	△ 1.3	39.5	31.4	188.0	27.4	49.0	113
28期末(2022年2月14日)	10,094	80	△ 5.6	41.0	38.5	182.4	27.9	50.6	108
29期末(2022年3月11日)	10,308	80	2.9	40.4	37.5	177.0	28.9	48.7	112
30期末(2022年4月11日)	10,518	80	2.8	45.6	38.6	176.3	33.5	59.4	123
31期末(2022年5月11日)	9,357	0	△ 11.0	48.2	37.8	183.9	32.2	59.5	109
32期末(2022年6月13日)	9,356	0	△ 0.0	48.0	38.9	170.3	32.8	62.5	110
33期末(2022年7月11日)	9,164	0	△ 2.1	46.1	27.5	163.4	34.3	56.5	97
34期末(2022年8月12日)	9,842	0	7.4	44.1	16.5	148.2	35.3	58.8	105
35期末(2022年9月12日)	9,522	0	△ 3.3	46.8	19.8	158.9	38.6	61.0	101
36期末(2022年10月11日)	7,806	0	△ 18.0	45.9	19.3	161.8	34.3	66.8	79
37期末(2022年11月11日)	8,577	0	9.9	42.4	17.2	144.5	36.3	60.7	84
38期末(2022年12月12日)	8,492	0	△ 1.0	41.1	16.8	157.8	36.7	62.5	81
39期末(2023年1月11日)	8,338	0	△ 1.8	40.5	16.8	144.8	36.0	60.6	76
40期末(2023年2月13日)	8,535	0	2.4	48.2	16.4	154.7	39.8	64.1	78
41期末(2023年3月13日)	8,138	0	△ 4.7	44.5	17.7	151.6	35.5	63.3	73
42期末(2023年4月11日)	9,093	0	11.7	44.0	15.6	143.2	38.3	59.7	83
43期末(2023年5月11日)	9,269	0	1.9	46.8	15.5	140.8	37.9	63.7	84
44期末(2023年6月12日)	9,260	0	△ 0.1	51.4	16.6	140.5	40.5	66.3	83
45期末(2023年7月11日)	9,195	0	△ 0.7	50.1	17.3	142.6	40.3	67.1	80
46期末(2023年8月14日)	9,100	0	△ 1.0	53.0	17.0	148.7	42.3	71.5	76
47期末(2023年9月11日)	9,057	0	△ 0.5	53.2	12.0	150.2	38.8	66.2	63

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 先物比率は買建比率－売建比率です。

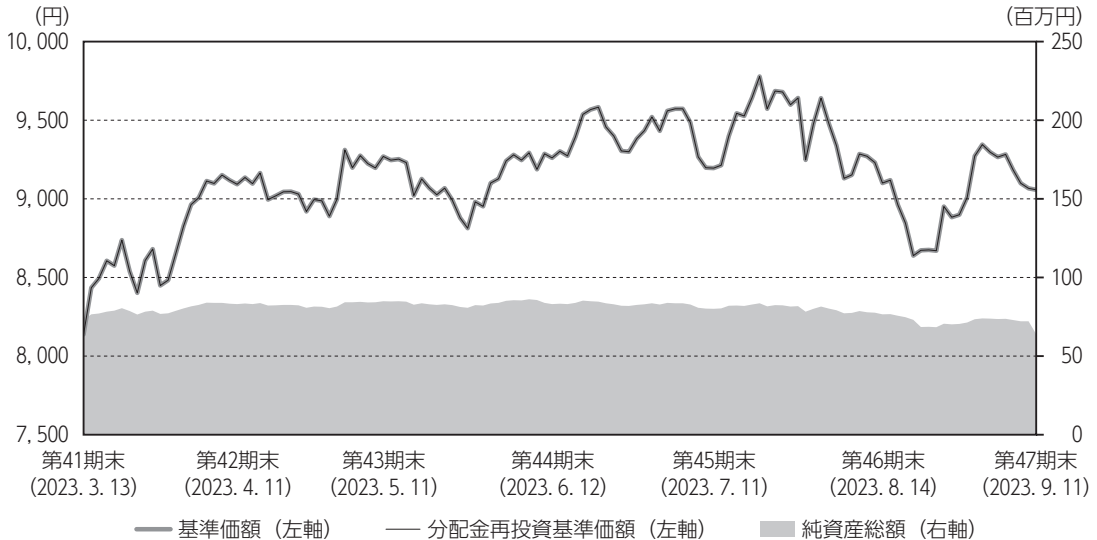
(注4) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

### 基準価額・騰落率

第42期首：8,138円

第47期末：9,057円（既払分配金0円）

騰落率：11.3%（分配金再投資ベース）

### 基準価額の変動要因

主に米国株式市況の上昇や為替相場の上昇（円安）を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

米国3倍4資産リスク分散ファンド（毎月決算型）

	年 月 日	基 準 価 額		株 式 先 物 比 率	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	商 品 先 物 比 率
		円	騰 落 率					
第42期	(期首) 2023年 3月13日	8,138	—	44.5	17.7	151.6	35.5	63.3
	3月末	8,827	8.5	45.5	16.3	147.9	39.3	62.2
	(期末) 2023年 4月11日	9,093	11.7	44.0	15.6	143.2	38.3	59.7
第43期	(期首) 2023年 4月11日	9,093	—	44.0	15.6	143.2	38.3	59.7
	4月末	8,998	△ 1.0	48.2	16.0	144.9	38.9	64.7
	(期末) 2023年 5月11日	9,269	1.9	46.8	15.5	140.8	37.9	63.7
第44期	(期首) 2023年 5月11日	9,269	—	46.8	15.5	140.8	37.9	63.7
	5月末	9,100	△ 1.8	51.1	16.8	142.5	39.4	67.0
	(期末) 2023年 6月12日	9,260	△ 0.1	51.4	16.6	140.5	40.5	66.3
第45期	(期首) 2023年 6月12日	9,260	—	51.4	16.6	140.5	40.5	66.3
	6月末	9,432	1.9	49.8	17.3	143.8	39.8	66.6
	(期末) 2023年 7月11日	9,195	△ 0.7	50.1	17.3	142.6	40.3	67.1
第46期	(期首) 2023年 7月11日	9,195	—	50.1	17.3	142.6	40.3	67.1
	7月末	9,477	3.1	51.5	15.9	141.3	40.2	68.8
	(期末) 2023年 8月14日	9,100	△ 1.0	53.0	17.0	148.7	42.3	71.5
第47期	(期首) 2023年 8月14日	9,100	—	53.0	17.0	148.7	42.3	71.5
	8月末	9,345	2.7	50.4	17.1	141.7	38.7	65.8
	(期末) 2023年 9月11日	9,057	△ 0.5	53.2	12.0	150.2	38.8	66.2

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

（2023. 3. 14 ~ 2023. 9. 11）

**米国株式市況**

米国株式市況は大幅に上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首より、米国の地方銀行の経営破綻に端を発する信用不安の広がりに対してF R B（米国連邦準備制度理事会）が緊急融資枠の新設を行ったことで資金繰り懸念が後退したことなどが好感され、成長株を中心に上昇しました。2023年4月以降は、地方銀行の経営不安や米国の債務上限問題への懸念が上値を抑えた一方、予想を上回る企業決算の発表が好感され、底堅い展開となりました。5月下旬以降は、A I（人工知能）関連で使用される半導体メーカーの強気見通しや債務上限問題の解決、インフレ率の鈍化などが好感されて大幅に上昇しました。8月は、長期金利が上昇したことやF R B高官発言への警戒感が高まったことなどから中旬にかけて下落しましたが、雇用の減速を示す統計の発表を受けて長期金利が低下したことが好感されて反発し、当作成期末を迎えました。

**米国債券市況**

米国金利は上昇（債券価格は下落）しました。

米国債券市況は、当作成期首より、米国地方銀行の経営破綻に端を発する信用不安が広がり、将来の利下げ織り込みが加速したことや投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、金利は大きく低下（債券価格は上昇）しました。2023年4月には、強弱入り混じる経済指標の結果などから長期金利は方向感のない展開となりましたが、地方銀行の経営不安が再度意識されたことで、短中期金利は小幅に低下しました。5月に入ると、経済指標の上振れや過度な信用不安の後退などを背景に、早期の引き締め終了期待がはく落したことから、金利は上昇しました。6月は、F R B（米国連邦準備制度理事会）が政策金利の据え置きを発表したものの今後の政策金利見通しを引き上げたことなどから、金利上昇が継続しました。7月は、米国を中心に景気の先行き不透明感が後退して期待インフレ率が上昇したことを受け、金利は上昇しました。当作成期末にかけては、底堅い経済指標を背景に利上げの継続スタンスが意識されたことに加え、財政赤字の拡大などによる国債の増発や格付会社による米国債の格下げが嫌気され、長期金利主導で上昇しました。

**米国リート市況**

米国リート市況は上昇しました。

米国リート市況は、当作成期首より、地方銀行の経営破綻などを背景に、信用不安への警戒感が高まったことなどから、軟調な推移となりました。2023年3月末から4月にかけては、米国当局による預金者保護や地方銀行救済策の導入などを受けて投資家のリスク回避姿勢が後退し、おおむね堅調な推移となりました。5月から6月にかけては、米国における銀行の信用不安への警戒感や債

務上限問題をめぐる不透明感、FRB（米国連邦準備制度理事会）による追加的な金融引き締めへの警戒感、景気をめぐる不確実性などの動向に左右され、上下する展開となりました。7月は、6月のCPI（消費者物価指数）が市場予想を上回るペースで鈍化傾向となったことを背景に、金融引き締めサイクルの終わりが意識され、上昇しました。8月に入り、堅調な経済指標が発表されたことなどから、米国経済の底堅さが意識されて長期金利は上昇傾向となり、当作成期末にかけて米国リート市況は下落基調となりました。

### ■金市況

金価格は小幅に上昇しました。

米国で銀行の信用不安が高まったことを背景に、金価格は当作成期首から2023年3月下旬にかけて上昇しました。その後も、4月上旬発表の米国3月ISM製造業景況感指数などの低調な経済指標や、5月上旬の米国の銀行の信用不安再燃などを材料に高値圏で推移しました。しかし、米国の銀行の信用不安が和らいだことや米国の債務上限問題への過度な懸念が後退したことなどから、5月中旬以降は軟調に推移しました。さらに6月上旬発表の米国5月雇用統計が強かったことや、6月中旬のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で年内残り2回の利上げ見通しが示されたことなどを嫌気し、6月末には1,900米ドル付近まで下落しました。7月中旬発表の米国6月CPI（消費者物価指数）が下振れして、早期の利上げ打ち止め観測が高まると、米国長期金利の低下に伴って7月後半には再び2,000米ドル付近まで上昇する場面もありました。しかし、日銀の金融緩和策の柔軟化や米国債の増発、米国の好調な経済指標を受けた米長期金利の上昇に上値を抑えられ、1,900米ドル台半ばで当作成期末を迎えました。

### ■為替相場

米ドル為替相場は、対円で上昇しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、信用不安の拡大により米国金利が大きく低下したことやリスク回避による円買い需要の高まりなどから、下落（円高）しました。2023年4月には、米国金利に連れる格好でレンジでの推移となりましたが、月末にかけては、次回のFOMC（米国連邦公開市場委員会）での利上げが意識される展開となり、小幅に上昇しました。その後は、経済指標の上振れなどを背景に米国金利が上昇するに連れて、米ドルは対円で上昇基調を強めました。6月に入ると、FRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利見通しを引き上げた一方で、日銀は現状の金融緩和策の維持を決定したことなどから、月末にかけて米ドルは対円での上昇幅を拡大しました。7月は、日本の政府要人等による円安けん制発言や日銀の政策運営の柔軟化決定を受けて米ドルは対円で下落しました。当作成期末にかけては、米国金利の上昇による日米金利差の拡大が意識され、米ドルは対円で上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態でも高位となるように組み入れます。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

## ポートフォリオについて

(2023. 3. 14 ~ 2023. 9. 11)

### ■当ファンド

「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が高位となるように組み入れました。

### ■米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当作成期は、基準価額の水準等を勘案し、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項目	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
	2023年3月14日 ～2023年4月11日	2023年4月12日 ～2023年5月11日	2023年5月12日 ～2023年6月12日	2023年6月13日 ～2023年7月11日	2023年7月12日 ～2023年8月14日	2023年8月15日 ～2023年9月11日
当期分配金(税込み) (円)	—	—	—	—	—	—
対基準価額比率 (%)	—	—	—	—	—	—
当期の収益 (円)	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	1,176	1,192	1,200	1,247	1,254	1,261

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



## 今後の運用方針

### 当ファンド

今後も、「米国3倍4資産リスク分散マザーファンド」の組入比率が通常の状態での高位となるように組み入れます。

### 米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。



## 1万口当りの費用の明細

項 目	第42期～第47期 (2023. 3. 14～2023. 9. 11)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	51円	0.560%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,139円です。
(投 信 会 社)	(20)	(0.219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(30)	(0.328)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.013)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	4	0.047	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(4)	(0.046)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.002)	
有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
そ の 他 費 用	1	0.010	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.003)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.003)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	56	0.617	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

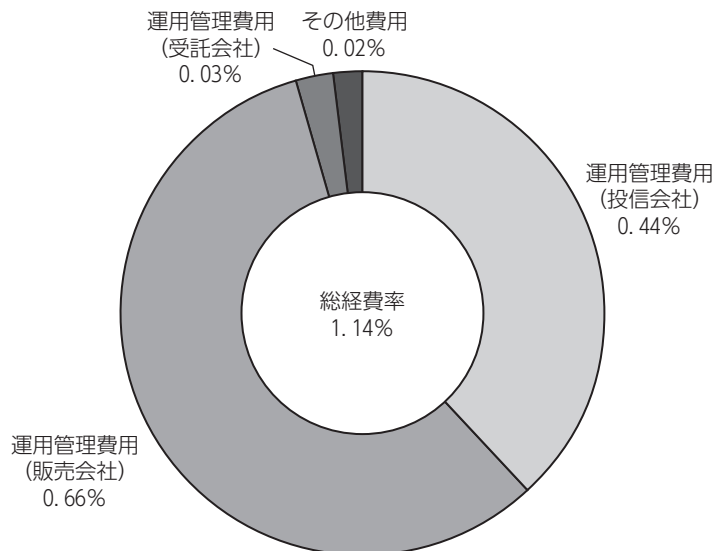
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.14%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

## 米国3倍4資産リスク分散ファンド（毎月決算型）

### ■売買および取引の状況

#### 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

決算期	第42期～第47期			
	設定		解約	
	□数	金額	□数	金額
	千口	千円	千口	千円
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	8,278	9,661	23,681	27,876

(注) 単位未満は切捨て。

### ■投資信託財産の構成

2023年9月11日現在

項目	第47期末	
	評価額	比率
	千円	%
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	63,694	88.1
コール・ローン等、その他	8,642	11.9
投資信託財産総額	72,337	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月11日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝146.97円です。

(注3) 米国3倍4資産リスク分散マザーファンドにおいて、第47期末における外貨建純資産(174,734千円)の投資信託財産総額(196,750千円)に対する比率は、88.8%です。

### ■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

### ■組入資産明細表

#### 親投資信託残高

種類	第41期末		第47期末	
	□数	□数	□数	評価額
	千口	千口	千口	千円
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド	69,606	54,203		63,694

(注) 単位未満は切捨て。

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2023年4月11日)、(2023年5月11日)、(2023年6月12日)、(2023年7月11日)、(2023年8月14日)、(2023年9月11日)現在

項目	第42期末	第43期末	第44期末	第45期末	第46期末	第47期末
<b>(A) 資産</b>	<b>83,961,801円</b>	<b>85,078,866円</b>	<b>86,620,623円</b>	<b>80,718,845円</b>	<b>76,659,519円</b>	<b>72,337,309円</b>
コール・ローン等	750,475	257,689	436,714	1,350,219	865,337	420,772
米国3倍4資産リスク分散マザーファンド(評価額)	82,888,326	84,758,177	82,843,909	79,270,626	75,794,182	63,694,537
未収入金	323,000	63,000	3,340,000	98,000	—	8,222,000
<b>(B) 負債</b>	<b>904,603</b>	<b>198,079</b>	<b>3,566,754</b>	<b>622,396</b>	<b>91,810</b>	<b>8,450,295</b>
未払解約金	832,893	120,414	3,482,680	546,104	5,165	8,384,618
未払信託報酬	71,205	76,619	82,439	74,130	83,885	62,474
その他未払費用	505	1,046	1,635	2,162	2,760	3,203
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>83,057,198</b>	<b>84,880,787</b>	<b>83,053,869</b>	<b>80,096,449</b>	<b>76,567,709</b>	<b>63,887,014</b>
元本	91,345,997	91,571,404	89,687,406	87,108,316	84,139,782	70,535,344
次期繰越損益金	△ 8,288,799	△ 6,690,617	△ 6,633,537	△ 7,011,867	△ 7,572,073	△ 6,648,330
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>91,345,997口</b>	<b>91,571,404口</b>	<b>89,687,406口</b>	<b>87,108,316口</b>	<b>84,139,782口</b>	<b>70,535,344口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	9,093円	9,269円	9,260円	9,195円	9,100円	9,057円

\* 当作成期首における元本額は89,936,400円、当作成期間(第42期～第47期)中における追加設定元本額は15,970,187円、同解約元本額は35,371,243円です。

\* 第47期末の計算口数当りの純資産額は9,057円です。

\* 第47期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は6,648,330円です。

## 米国3倍4資産リスク分散ファンド（毎月決算型）

### ■損益の状況

項目	第42期 自 2023年3月14日 至 2023年4月11日 第43期 自 2023年4月12日 至 2023年5月11日	第43期 自 2023年5月12日 至 2023年6月12日 第45期 自 2023年6月13日 至 2023年7月11日	第44期 自 2023年5月12日 至 2023年6月12日 第45期 自 2023年6月13日 至 2023年7月11日	第45期 自 2023年7月12日 至 2023年8月14日 第47期 自 2023年8月15日 至 2023年9月11日	第46期 自 2023年7月12日 至 2023年8月14日 第47期 自 2023年8月15日 至 2023年9月11日	第47期 自 2023年8月15日 至 2023年9月11日
(A) 配当等収益	△ 1円	△ 1円	△ 1円	△ 1円	△ 5円	△ 1円
支払利息	△ 1	—	—	—	△ 5	△ 1
(B) 有価証券売買損益	8,560,957	1,665,418	27,590	△ 509,206	△ 743,766	△ 227,425
売買益	8,757,572	1,678,559	54,321	74,947	108,786	272,219
売買損	△ 196,615	△ 13,141	△ 26,731	△ 584,153	△ 852,552	△ 499,644
(C) 信託報酬等	△ 71,710	△ 77,160	△ 83,028	△ 74,657	△ 84,483	△ 62,917
(D) 当期損益金 (A + B + C)	8,489,246	1,588,258	△ 55,438	△ 583,863	△ 828,254	△ 290,343
(E) 前期繰越損益金	△ 19,075,761	△ 10,364,715	△ 8,343,741	△ 8,021,262	△ 8,133,495	△ 7,331,454
(F) 追加信託差損益金	2,297,716	2,085,840	1,765,642	1,593,258	1,389,676	973,467
(配当等相当額)	( 9,427,142)	( 9,483,709)	( 9,332,875)	( 9,091,613)	( 8,820,506)	( 7,430,925)
(売買損益相当額)	(△ 7,129,426)	(△ 7,397,869)	(△ 7,567,233)	(△ 7,498,355)	(△ 7,430,830)	(△ 6,457,458)
(G) 合計 (D + E + F)	△ 8,288,799	△ 6,690,617	△ 6,633,537	△ 7,011,867	△ 7,572,073	△ 6,648,330
次期繰越損益金 (G)	△ 8,288,799	△ 6,690,617	△ 6,633,537	△ 7,011,867	△ 7,572,073	△ 6,648,330
追加信託差損益金	2,297,716	2,085,840	1,765,642	1,593,258	1,389,676	973,467
(配当等相当額)	( 9,427,142)	( 9,483,709)	( 9,332,875)	( 9,091,613)	( 8,820,506)	( 7,430,925)
(売買損益相当額)	(△ 7,129,426)	(△ 7,397,869)	(△ 7,567,233)	(△ 7,498,355)	(△ 7,430,830)	(△ 6,457,458)
分配準備積立金	1,322,519	1,440,432	1,438,325	1,772,883	1,732,614	1,468,697
繰越損益金	△ 11,909,034	△ 10,216,889	△ 9,837,504	△ 10,378,008	△ 10,694,363	△ 9,090,494

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

### ■収益分配金の計算過程（総額）

項目	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
(a) 経費控除後の配当等収益	382,416円	145,620円	68,911円	399,275円	56,898円	51,273円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0	0	0	0	0
(c) 収益調整金	9,427,142	9,483,709	9,332,875	9,091,613	8,820,506	7,430,925
(d) 分配準備積立金	940,103	1,294,812	1,369,414	1,373,608	1,675,716	1,417,424
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	10,749,661	10,924,141	10,771,200	10,864,496	10,553,120	8,899,622
(f) 分配金	0	0	0	0	0	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	10,749,661	10,924,141	10,771,200	10,864,496	10,553,120	8,899,622
(h) 受益権総口数	91,345,997口	91,571,404口	89,687,406口	87,108,316口	84,139,782口	70,535,344口

# 米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

## 運用報告書 第8期 (決算日 2023年9月11日)

(作成対象期間 2023年3月14日～2023年9月11日)

米国3倍4資産リスク分散マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	次の有価証券および先物取引 イ. 米国株式を対象とした株価指数先物取引 ロ. 米国国債を対象とした先物取引 ハ. 米国の不動産投資信託の受益証券または不動産投資法人の投資証券（以下「リート」といいます。）の指数を対象指数としたETF（上場投資信託証券） ニ. 米国リートを対象としたリート指数先物取引 ホ. 金を対象とした先物取引 ヘ. 米国国債
株式組入制限	無制限

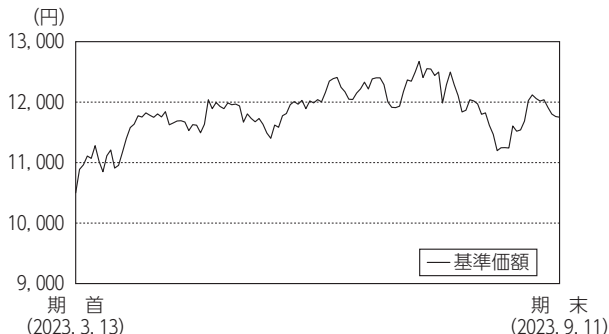
## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

# 米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

## ■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年月日	基準価額		株式先物 比率	公社債 組入比率	債券先物 比率	投資信託 受益証券 組入比率	商品先物 比率
	円	騰落率					
(期首) 2023年3月13日	10,500	—	44.5	17.8	151.8	35.6	63.4
3月末	11,400	8.6	45.5	16.3	148.1	39.4	62.3
4月末	11,633	10.8	48.3	16.0	145.1	38.9	64.8
5月末	11,775	12.1	51.2	16.8	142.7	39.4	67.1
6月末	12,217	16.4	49.9	17.3	144.0	39.9	66.7
7月末	12,286	17.0	51.6	15.9	141.5	40.3	68.9
8月末	12,120	15.4	50.5	17.2	141.8	38.8	65.9
(期末) 2023年9月11日	11,751	11.9	53.4	12.1	150.7	38.9	66.4

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 先物比率は買建比率－売建比率です。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 《運用経過》

### ◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,500円 期末：11,751円 騰落率：11.9%

### 【基準価額の主な変動要因】

主に米国株式市況の上昇や為替相場の上昇(円安)を受けて、当作成期の基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

### ◆投資環境について

#### ○米国株式市況

米国株式市況は大幅に上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首より、米国の地方銀行の経営破綻に端を発する信用不安の広がりに対してF R B(米国連邦準備制度理事会)が緊急融資枠の新設を行ったことで資金繰り懸念が後退したことなどが好感され、成長株を中心に上昇しました。2023年4月以降は、地方銀行の経営不安や米国の債務上限問題への懸念が上値を抑えた一方、予想を上回る企業決算の発表が好感され、底堅い展開となりました。5月下旬以降は、AI(人工知能)関連で使用される半導体メーカーの強気見通しや債務上限問題の解決、インフレ率の鈍化などが好感されて大幅に上昇しました。8月は、長期金利が上昇したことやF R B高官発言への警戒感が高まったことから中旬にかけて下落しましたが、雇用の減速を示す統計の発表を受けて長期金利が低下したことが好感されて反発し、当作成期末を迎えました。

#### ○米国債券市況

米国金利は上昇(債券価格は下落)しました。

米国債券市況は、当作成期首より、米国地方銀行の経営破綻に端を発する信用不安の広がりに、将来の利下げ織り込みが加速したことや投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、金利は大きく低下(債券価格は上昇)しました。2023年4月には、強弱入り混じる経済指標の結果などから長期金利は方向感のない展開となりましたが、地方銀行の経営不安が再度意識されたことで、短中期金利は小幅に低下しました。5月に入ると、経済指標の上振れや過度な信用不安の後退などを背景に、早期の引き締め終了期待がはく落したことから、金利は上昇しました。6月は、F R B(米国連邦準備制度理事会)が政策金利の据え置きを発表したものの今後の政策金利見直しを引き上げたことなどから、金利上昇が継続しました。7月は、米国の中心に景気の先行き不透明感が後退して期待インフレ率が上昇したことを受け、金利は上昇しました。当作成期末にかけては、底堅い経済指標を背景に利上げの継続スタンスが意識されたことに加え、財政赤字の拡大などによる国債の増発や格付会社による米国債の格下げが嫌気され、長期金利主導で上昇しました。

#### ○米国リート市況

米国リート市況は上昇しました。

米国リート市況は、当作成期首より、地方銀行の経営破綻などを背景に、信用不安への警戒感が高まったことなどから、軟調な推移となりました。2023年3月末から4月にかけては、米国当局による預金者保護や地方銀行救済策の導入などを受けて投資家のリスク回避姿勢が後退し、おおむね堅調な推移となりました。5月から6月にかけては、米国における銀行の信用不安への警戒感や債務上限問題をめぐる不透明感、F R B(米国連邦準備制度理事会)による追加的な金融引き締めへの警戒感、景気をめぐる不確実性などの動向に左右され、上下する展開となりました。7月は、6月のC P I(消費者物価指数)が市場予想を上回るペースで鈍化傾向となったことを背景に、金融引き締めサイクルの終わりが意識され、上昇しました。8月に入り、堅調な経済指標が発表されたことなどから、米国経済の底堅さが意識されて長期金利は上昇傾向となり、当作成期末にかけて米国リート市況は下落基調となりました。

#### ○金市況

金価格は小幅に上昇しました。

米国で銀行の信用不安が高まったことを背景に、金価格は当作成期首から2023年3月下旬にかけて上昇しました。その後も、4月上

旬発表の米国3月ISM製造業景況感指数などの低調な経済指標や、5月上旬の米国の銀行の信用不安再燃などを材料に高値圏で推移しました。しかし、米国の銀行の信用不安が和らいだことや米国の債務上限問題への過度な懸念が後退したことなどから、5月中旬以降は軟調に推移しました。さらに6月上旬発表の米国5月雇用統計が強かったことや、6月中旬のFOMC（米国連邦公開市場委員会）で年内残り2回の利上げ見通しが示されたことなどを嫌気し、6月末には1,900米ドル付近まで下落しました。7月中旬発表の米国6月CPI（消費者物価指数）が下振れして、早期の利上げ打ち止め観測が高まると、米国長期金利の低下に伴って7月後半には再び2,000米ドル付近まで上昇する場面もありました。しかし、日銀の金融緩和策の柔軟化や米国債の増発、米国の好調な経済指標を受けた米長期金利の上昇に上値を抑えられ、1,900米ドル台半ばで当作成期末を迎えました。

■ 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料 (先物・オプション) (投資信託受益証券)	6円 ( 5) ( 0)
有価証券取引税 (投資信託受益証券)	0 ( 0)
その他費用 (保管費用) (その他)	1 ( 0) ( 0)
合 計	6

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。  
(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況

(1) 公 社 債

(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

			買 付 額	売 付 額
			千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
外 国	アメリカ	国債証券	71	— ( 170)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
(注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
(注3) 単位未満は切捨て。

(2) 投資信託受益証券

(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

		買 付		売 付	
		□ 数	金 額	□ 数	金 額
外 国	アメリカ	千口 1.2 ( —)	千アメリカ・ドル 97 ( —)	千口 1.3 ( —)	千アメリカ・ドル 106 ( —)

(注1) 金額は受渡し代金。  
(注2) 買付( )内は分割割当、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。  
(注3) 売付( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
(注4) 金額の単位未満は切捨て。

○ 為替相場

米ドル為替相場は、対円で上昇しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、信用不安の拡大により米国金利が大きく低下したことやリスク回避による円買い需要の高まりなどから、下落（円高）しました。2023年4月には、米国金利に連れる格好でレンジでの推移となりましたが、月末にかけては、次回のFOMC（米国連邦公開市場委員会）での利上げが意識される展開となり、小幅に上昇しました。その後は、経済指標の上振れなどを背景に米国金利が上昇するに連れて、米ドルは対円で上昇基調を強めました。6月に入ると、FRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利見直しを引き上げた一方で、日銀は現状の金融緩和策の維持を決定したことなどから、月末にかけて米ドルは対円で下落しました。当作成期末にかけては、米国金利の上昇による日米金利差の拡大が意識され、米ドルは対円で上昇しました。

◆ 前作成期末における「今後の運用方針」

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

◆ ポートフォリオについて

主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行いました。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行いました。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行いました。

◆ ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

今後も主として、米国の株式、リートおよび債券ならびに金を投資対象とし、先物取引等を活用した分散投資により、信託財産の成長をめざして運用を行います。また、各投資対象の比率については、ポートフォリオ全体に占める各資産のリスク割合が均等となることを目標に毎月見直しを行います。

また、残存期間の短い米国国債にも投資を行います。

## 米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

### ■先物・オプション取引状況等

#### 先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

銘柄別		買 建		売 建		当 作 成 期 末 評 価 額		
		新規買付額 百万円	決 済 額 百万円	新規売付額 百万円	決 済 額 百万円	買 建 額 百万円	売 建 額 百万円	評価損益 百万円
外 株 式	SP500 MIC EMIN FUT (アメリカ)	104	107	—	—	49	—	1
	NASD100 MICRO EMIN (アメリカ)	102	110	—	—	49	—	1
国 債 券	US LONG BOND (CBT) (アメリカ)	194	211	—	—	87	—	△ 0
	US 10YR NOTE (CBT) (アメリカ)	191	190	—	—	96	—	△ 0
	US 5YR NOTE (CBT) (アメリカ)	198	198	—	—	93	—	△ 0
商 品	E-MICRO GOLD (アメリカ)	409	416	—	—	122	—	△ 2

(注) 単位未満は切捨て。

### ■主要な売買銘柄

#### (1) 投資信託受益証券

(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

当 期				期 末			
買 付		金 額		平均単価		売 付	
銘 柄	口 数	金 額	平均単価	銘 柄	口 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
VANGUARD REAL ESTATE ETF (アメリカ)	1.2	13,028	10,857	VANGUARD REAL ESTATE ETF (アメリカ)	1.3	15,558	11,968

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

#### (2) 公 社 債

(2023年3月14日から2023年9月11日まで)

当 期			期 末		
買 付		金 額	売 付		金 額
銘 柄		金 額	銘 柄		金 額
		千円			千円
U. S. TREASURY BILL (アメリカ) 2024/7/11		10,045			

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。



■組入資産明細表

(1) 外国（外貨建）公社債（通貨別）

区 分	額 面 金 額	当 期			末			
		評 価 額		組入比率	うちBB格 以下組入 率	残存期間別組入比率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5年以上	2年以上	2年未満
アメリカ	千アメリカ・ドル 155	千アメリカ・ドル 151	千円 22,281	% 12.1	% —	% —	% —	% 12.1

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 外国（外貨建）公社債（銘柄別）

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
					千アメリカ・ドル	千円	
アメリカ	U.S. TREASURY BILL	国債証券	—	80	79	11,726	2023/10/05
	U.S. TREASURY BILL	国債証券	—	75	71	10,555	2024/07/11
合 計	銘柄数 金 額	2銘柄		155	151	22,281	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(3) 外国投資信託受益証券

銘 柄	期 首 □ 数	当 期 末		
		□ 数	評 価 額	
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
	千口	千口	千アメリカ・ドル	千円
(アメリカ) VANGUARD REAL ESTATE ETF	6.1	6	489	71,938
合 計	□ 数、金額 銘柄数<比率>	6.1 1銘柄	6 1銘柄	489 <38.9%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) < >内は純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

# 米国3倍4資産リスク分散マザーファンド

## ■投資信託財産の構成

2023年9月11日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	22,281	11.3
投資信託受益証券	71,938	36.6
コール・ローン等、その他	102,529	52.1
投資信託財産総額	196,750	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月11日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝146.97円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(174,734千円)の投資信託財産総額(196,750千円)に対する比率は、88.8%です。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年9月11日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>215,726,671円</b>
コール・ローン等	49,315,367
公社債(評価額)	22,281,688
投資信託受益証券(評価額)	71,938,876
未収入金	25,639,001
差入委託証拠金	46,551,739
<b>(B) 負債</b>	<b>30,934,271</b>
未払金	22,712,271
未払解約金	8,222,000
<b>(C) 純資産総額(A-B)</b>	<b>184,792,400</b>
元本	157,254,218
次期繰越損益金	27,538,182
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>157,254,218口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	11,751円

\*期首における元本額は177,208,212円、当作成期間中における追加設定元本額は20,860,657円、同解約元本額は40,814,651円です。

\*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

米国3倍4資産リスク分散ファンド(隔月決算型)	27,838,100円
米国3倍4資産リスク分散ファンド(年2回決算型)	75,212,614円
米国3倍4資産リスク分散ファンド(毎月決算型)	54,203,504円

\*当期末の計算口数当りの純資産額は11,751円です。

## ■損益の状況

当期 自 2023年3月14日 至 2023年9月11日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>3,777,501円</b>
受取配当金	1,495,106
受取利息	831,693
その他収益金	1,455,012
支払利息	△ 4,310
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>15,762,424</b>
売買益	15,793,846
売買損	△ 31,422
<b>(C) 先物取引等損益</b>	<b>2,776,034</b>
取引益	25,873,128
取引損	△ 23,097,094
<b>(D) その他費用</b>	<b>△ 12,715</b>
<b>(E) 当期損益金(A+B+C+D)</b>	<b>22,303,244</b>
<b>(F) 前期繰越損益金</b>	<b>8,864,944</b>
<b>(G) 解約差損益金</b>	<b>△ 7,359,349</b>
<b>(H) 追加信託差損益金</b>	<b>3,729,343</b>
<b>(I) 合計(E+F+G+H)</b>	<b>27,538,182</b>
次期繰越損益金(I)	27,538,182

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。